

# MDJ ファイナル・レポート

## interpack 2017 + components 2017

国際加工・包装産業展 – 国際加工・包装部品展

2017 年 5 月 31 日

### 170,500 もの関係者が来場、会期中に多くの商談が成立 ドイツ国外からの参加が、過去最多レベルに

世界最大かつ最も重要な包装・加工業界専門メッセ interpack は、2017 年の開催に向けて、多くの関係者が非常に高い関心を寄せていた。その結果、interpack 2017 は、2,865 社におよぶ出展者と、170,500 人も来場者を迎え、



よい雰囲気の中 5 月 10 日にその幕を閉じた。特筆すべきは来場者の質で、全体の 74% がドイツ国外から視察に訪れ、また、意思決定者の割合も 3/4 に達する、という記録を樹立した。

世界 168 か国から、一流の業界関係者が多数来場したことに、出展者は高い満足度を示した。というのも、期待できる潜在顧客とのつながりができ、さらには、7 桁におよぶことも珍しくない具体的な成約が、会期中になされたからだ。来場者は一方、世界的に見ても他の追随を許さない、豊富なイノベーションと唯一無二のマーケット情報に、ふれることができた。これは、メッセの評価においても称賛されている点である。interpack 2017 の視察に関する公式アンケートにおいて、およそ 98% が、満足している、あるいは非常に満足している、と回答している。出展製品への関心度は、おしなべてどの分野についても高かったが、なかでも包装資材製造は、前回開催から著しい伸びが見られた。

『interpack は、業界関係者にとって、必要不可欠かつ参加必須な専門メッセであり、ほかにはない刺激を与えてくれる。というのは、新規・潜在顧客、そして既存のパートナーと出会い、商談ができる、まさにビジネスが進む場として、世界中で広く認知されているからだ。』と、interpack 2017 実行委員会会長である F. クレフェンツが強調する。

**interpack**  
PROCESSES AND PACKAGING  
LEADING TRADE FAIR

DÜSSELDORF  
GERMANY  
04<sup>TO</sup> 10  
MAY  
2017  
INTERPACK.COM

株式会社メッセ・  
デュッセルドルフ・ジャパン  
担当 橋本 雅弘

〒102-0094  
東京都千代田区  
紀尾井町 4-1  
ニューオータニ  
ガーデンコート 7F

Tel.: 03-5210-9951  
Fax: 03-5210-9959

  
Messe  
Düsseldorf  
Japan

メッセ・デュッセルドルフ代表取締役 H. W. ラインハルトは、『interpack は、3 年ごとに行われる、世界で最も重要かつ最新イノベーションが発信される業界メッセであることを、またしても強烈に印象づけた。加えて、旗艦プロジェクトとして interpack が名を連ねる、昨年春に始動した「interpack alliance」コンセプトのおかげで、interpack はさらにその存在感を、特にドイツ国外の成長市場において増し、かくして、より多くの質の高い関係者にご来場いただけた。』と、分析した。

## トレンドは、デジタル化、インダストリー4.0、持続可能性

多くのブースで取り上げられていた注目のトレンドは、インダストリー4.0 応用に向けての、製造工程のさらなるデジタル化だった。ネットワーク化された製造は、例えば、それぞれのニーズに対応する包装を経済的かつ効率的に実現する、あるいは追跡可能性を担保することを可能にする。さらには、製造における複雑さを低減し、バッチサイズ、そして製品バージョンを変えられることのできるほどの、最高水準の柔軟性を達成するにあたり、包装機械、加工ラインのモジュラー設計と、最適化されたデジタル操作コンセプトは、大きな役割を果たす。なかには、機械・機器の製造工程において、そして訓練ならびに操作において、複雑さをより制御するため、機械あるいはプラントを総合的に体験できるような、仮想現実応用に焦点をあてる企業もあった。持続可能性は、interpack 2017 + components 2017 の至るところで扱われていた。厚さがさらに薄くなるよう、使用する素材、そして製造工程において、資源効率を改善できるソリューションが紹介されていたほか、代替包装資材が、業界関係者に広く受け入れられてきている傾向が、見てとれた。

## 成功をおさめた特別テーマ

インダストリー4.0 は、出展者のブースで紹介されていただけではない。ドイツ機械工業連盟 (VDMA) の協力で実現した、同名の interpack 特別展も、最新の着想と取り組みを示し、好評を博した。なかでも、人々の関心を惹きつけていたのは、名前入りのモバイルバッテリーを製造、包装する実演機「smart4i」だった。これは、オンラインでの注文からトレーサビリティに至るまでの、全体の作業の流れがデジタルであるだけでなく、機械自身が、バーチャルツインにより、記録的な速さで設定され、そして、複数大学の協力のもと、ネットワーク化が計画されている。

## SAVE FOOD 会議、innovationparc

立ち上げられてから早 6 年、SAVE FOOD は、国際的に活動する、850 を超える業界企業、団体、NGO、研究機関などが賛同する組織に成長した。interpack 会期初日の 5 月 4 日には、幅広いさまざまなテーマで、第 3 回 SAVE FOOD 会議が行われ、高い評価を獲得した。参加者には、会議で講演した V. アンドリウカティス欧州委員会保健衛生・食の安全総局担当、インド食品加工産業省 G. カウル次官補兼



財務顧問をはじめとした、要職にある政治家、高級官僚、あるいは学者、熱心に食品ロス低減に尽力する NGO、産業界からの代表者らが名を連ねた。会議では、食品ロス問題を包括的に対処する、多次元の取り組みが示されたほか、地球規模的視野、そして国ごとの細部や様相、今回は特にイ

ンドに関して焦点があてられた。また、重要な主食における食品ロスのメカニズムを理解し、その解決策を見出す、という目的をもって、国連食糧農業機関(FAO)が実施し、SAVE FOOD が支援した、インドの調査報告が紹介された。

SAVE FOOD のパートナーである FAO とメッセ・デュッセルドルフは、今後 4 年間の協力関係に関する覚書に署名した。『注目度抜群の特別なトピックスを取り上げていくことは、まさに interpack の真髄である。われわれのパートナーFAO、そして、食品ロス低減に対し、ともに向き合ってくれる企業・団体とともに、今後も変わらず携われることを喜ばしく思う。われわれが熱心に取り組むことはもちろん、包装・加工業界の可能性を発信していきたい。』と、メッセ・デュッセルドルフ代表取締役社長 W. M. ドーンシャイトが述べている。

interpack 2017 内に、SAVE FOOD 特別展《innovationparc》が設けられ、食品ロス低減に貢献する、非常に実用的な解決策が発信された。世界包装機構(WPO)の WorldStar Awards 優勝者、ならびに最終選考者も、同エリアに参加、例えば、熟成を促すガスを吸収する装置を組み込むことで、保存期間を飛躍的に延長することができる、果物用のプラスチック袋などが展示された。

## components – 歓迎された新たなコンセプト

2017 年開催に向け改められた、《components – 国際加工・包装部品展》のコンセプトは、広く来場者に受け入れられた。出展者の満足度も高く、来場者の質に対して、特に良い評価を下している。『来場者の流れが、残念ながら最適ではなかった 3 年前の初開催に続く、第 2 回目となる components を、メッセ会場の中心に設け、interpack と全く同じ会期で開催したことは、正しい判断だったと証明された。この分野の重要性は、全く疑いの余地がない。というのも、包装・加工技術に対して部品・ソフトウェアを供給する企業は、製造工程のデジタル化にあたり、そしてインダストリー4.0の取り組みにおいて、重要な役割を果たすからだ。ゆえに、ドイツ国外で手がける interpack alliance 各メッセに対しても、将来的にこの components を加えていく。』と、メッセ・デュッセルドルフ加工・包装産業メッセ統括 B. ヤブロノフスキーが総括した。



## メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン(MDJ)の活動

### ジャパン・パビリオンの設置・運営

前回 2014 年開催からスタートし、今回で第 2 回目となった MDJ 企画の《ジャパン・パビリオン》へ、旭化成(株)、朝日産業(株)、(株)ジャパン・パッケージ、一般社団法人日本包装機械工業会、にご出展いただいた。《ジャパン・パビリオン》の場所が、機械と素材の両方が見られるホール=11 号館であったこと、出展各社が実際に機械・素材を展示したこと、そして弊社が発行した《[Japanese Exhibitors Directory](#)》をはじめ、出展日本企業に関し、会期前はもとより、会期中も含め、周知に

努めた結果、『欧州各国はもとより、世界のあらゆる国から来訪があった』、『非常に勉強になった』、『次回も、ジャパン・パビリオンでの出展を検討したい』といった、評価の声を頂戴した。

## Japan Day

日本からご参加の皆さまに、視察の成果を最大限に得ていただくため、毎回好評いただいている『Japan Day』を、今回は5月8日(月)に開催、以下の3つのプログラムを用意した。

会場巡回ハイライトツアー：今回も、素材、機械の2つのコースを提供した。素材コースは、サステナブル素材、環境配慮型素材を、機械コースは、インダストリー4.0、IoTを、それぞれのテーマとし、



素材では、Dow Europe、Edelmann、Mondi、PrintCity、SCHÜTZ を、機械では、GEA Food Solutions Germany、IMA、MULTIVAC、Robert Bosch Packaging Technology、VDMA Fachverband Nahrungsmittelmaschinen und Verpackungsmaschinen を訪問した。ハイライトツアーは、毎回関心が高く、今年も早々に満席となり、キャンセル待ちは、それぞれ10名を超えるほどだった。

現地セミナー：『ヨーロッパの包装産業事情』と題し、欧州・ドイツでホットなテーマや、日本の関係者にご関心をお持ちになるような話題を取り上げ、セミナーを実施した。具体的には、『欧州包装産業の傾向と展開』、『包装産業とインダストリー4.0』、『食品廃棄物と包装の役割』、『インテリジェント・パッケージング』というタイトルで、ドイツ機械工業連盟(VDMA)食品・包装機械工業会、世界包装機構(WPO)、そしてアクティブ・インテリジェント包装協会(AIPIA)から講師を招き、お話いただいた。30余名におよんだ参加者は、熱心に耳を傾けていた。

懇親会：Japan Dayの締めくくりとして、18時30分から会場敷地内のコンgresセンター(東)で懇親会を開催、interpack + componentsの出展・来場者のおよそ50名に、ご参加いただいた。ドイツ料理と地ビール・ワインを囲み、なごやかな雰囲気の中、情報交換が活発に行われた。

## interpack 2020 + components 2020

次回のinterpack + componentsは、南口と1号館がリニューアルする、デュッセルドルフ見本市会場で、2020年5月7日(木)～13日(水)に開催される(2020年会期については、2017年6月27日付けのプレスリリースにて発表)。

『interpack + components』、ならびに『interpack alliance』に関する情報・お問い合わせは、[\(株\)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン](#)、あるいは[日本語ウェブサイト](#)をご覧ください。